

三方よし！
近江日野田舎体験

心の交流、三方よし！近江日野田舎体験

三方よし！近江日野田舎体験推進協議会では、農作業や山の作業、伝承料理づくり、伝統文化など、日野町で営まれている日常の暮らしの体験を通して、地域と日野を訪れる人々との交流を推進していきます。今回は、日野中学校の体験事例を紹介します。

日野中学校の修学旅行

長崎県松浦党の里 ほんなもん体験

「ほんなもん」とは、「ほんもの」という意味です。長崎県北松浦半島松浦党の里では、漁業や農林業、味覚体験など90以上の体験プログラムがあり、平成14年の活動開始以来、今年度は体験教育旅行

(修学旅行) だけで90校余り、1万6千人が訪れています。日野中学校も修学旅行で松浦党の里を訪れています。長崎市内で平和学習などを行い、一泊は農山漁村での民泊です。民泊することが目的ではなく、主たる産業である漁業や農林業、自然体験などの体験と民泊体験を通して、漁業や農業などの生業の現実や地

域の暮らし、そして、何よりも人と人との関わり大切さ、人として大切な心を学んでいます。松浦党の里体験観光協議会では、「点在する島々や農漁村での農林漁業体験を通して、日本の文化と『人間関係を築く力』を高めてほしい」と話しています。

日野町でも田舎体験を

日野町は、自然や歴史、農林業、伝承料理などの豊かな地域資源に恵まれています。田植えや稲刈り、野菜づくり、伝承料理づくり、特産品づくり、エコ・ツアーなど、多くの地域資源に関わる町民の皆さんの生業や技、伝統、そして、皆さん自身と、日野町を訪れる人々との交流を通して、人として大切なものを伝え、日野町の魅力、農村の魅力を発信していきたいと考えています。



「最初は不安だったけど、行ってみたら、海とか、すごくきれいだった。初めてアジをさばいた。すごくかわいそうだったけど、すごくおいしかった。家の人もすごく優しく、修学旅行一番の思い出になった。」

修学旅行生の声 (原文のまま)

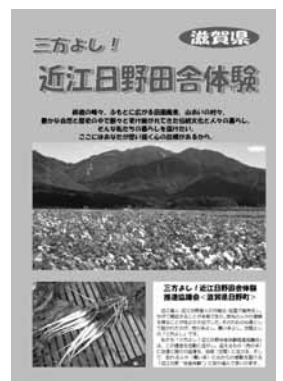
「ほんなもん体験」は、最初あまりやりたくないなあと思っていたけど、民泊の家に行くのと、みんな優しくすぐにくっついて仲良くなれた。体験は船に乗った。風が気持ちよかったです。自分がかんだ魚を食べた。とてもおいしかった。この体験は普段できない体験で、やってよかった。」



また、この「三方よし！近江日野田舎体験」の取り組みによって、迎えるもの(売り手)に自信と誇りの回復を、地域(世間)に活力を、そして、訪れる人々(買い手)に心からの感動を伝え、迎える側、訪れる側双方の心温まる、そして心が高まる旅を提供していきたいと考えていますので、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

民泊受入家庭を募集します！

三方よし！近江日野田舎体験推進協議会では、平成22年度での体験教育旅行(修学旅行)の受け入れを目指して、民泊50軒を目標に、受入家庭を募集します。子ども達など日野を訪れる人々との交流を通して、地域、生業、そして、自身自身の自信と誇りを回復するために、日野を訪れる人々を「おいでやす！」と迎えていただけるご家庭のご協力をお願いします。農家、非農家は関係ありません。ご協力いただける方は、協議会事務局までご連絡ください。



▶日野中学校修学旅行での体験の様子